

# 相手を理解して伝えようとする姿勢を育む読書活動の実践

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 平林諒

## 1. 研究の目的と動機

この研究は、読書活動における「相手を理解して伝えようとする姿勢を育む」ための授業デザインの構築と、その成果を検証することを目的としている。

### (1) 昨年度の研究について

筆者が行った昨年度の研究『生徒全員がクラスの一員として学んでいることを実感できる国語科授業デザイン』平林(2021)では、学級の中で、人前で話すことが苦手な生徒に対してワークシートを用いて意見交換をすることや、教材内容に興味を持つことができない生徒に対して作品の様々な視点を与えて読みを深める手立てを取り入れることで、そのような生徒もクラスの一員として学んでいることを実感できる授業デザインを構築することができた。このように昨年度は教師側が多様性を意識して、ユニバーサルデザインやインクルーシブの視点からの指導を工夫した。

### (2) 今年度の研究について

昨年度は教師側が指導の工夫をしたのに対し、今年度は生徒たち自身が多様性を意識し、相手のことを理解してわかりやすく伝える力を育成したいと考えた。ただ自分の思いを伝えるだけではなく、相手のことを理解してわかりやすく伝えることは国語科授業だけでなく、社会生活においても大切なことである。この研究を通してそのような姿勢を育む授業デザインを考えていきたい。

## 2. 研究のねらい

### (1) わかりやすく伝える力について

伝え合う力について『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(p11)の「教科の目標」では以下のように記述している。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

2,社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。このことから伝え合う力の育成が国語科教育で求められていると言える。

分かりやすく伝えることについて、『文部科学省 言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】他者に的確に分かりやすく伝えること』では、

理解した事実等を他者に分かりやすく伝えるためには、自分や聞き手・読み手の目的や意図に照らして事実等を整理し、明確に伝えることが必要である。

と述べている。そしてコミュニケーションに関することについては以下のように述べている。

自分の思いや考えを持ちつつそれを相手に伝えようとするとともに、相手の思いや考えを理解し、尊重しようとすることも大切である。

これらのことから、相手に分かりやすく伝えるためには、聞き手・読み手の目的や意図に照らすことや、相手の思いや考えを理解することが必要であると筆者は考える。

また、相手の思いや考えを理解する上で多様性を意識することも欠かせない。多様性について『国立国語研究所 ことばビデオシリーズ』では以下のように述べている。

各々の個性があり、人は一人一人が違って

いる。コミュニケーションが自分の思ったように運ばないときでも、相手は自分とは違う発想をしているのかもしれない、それはどのようなものだろう、と想像してみることが大切である。

以上のことを踏まえて、どのようにしたら生徒が相手の思いや考えを理解し、相手の目的や意図に照らしながら、分かりやすく伝えることができるようになるかを考え、授業デザインを提案する。

## (2) 読書活動について

この授業デザインを読書活動において探る。筆者が読書活動を選択した理由は2つある。

1つ目は、読書活動に求められているものが今年度の研究テーマと合致しているからである。『文部科学省 子どもの読書活動推進ホームページ』において読書活動の意義は以下のように述べられている。

読書活動は子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

そして、『第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画』では、第3次基本計画期間における子供の読書活動に関する課題として、「中学校、高校に進学するにつれて読書の関心度合いの低下があり、改善策として友人同士で本を勧め合うなどの話し合い活動を行い、読書の関心を高める取り組みを充実させること必要性がある。」と述べている。

以上のことから、読書をして自分の中だけで読みを理解する読書活動ではなく、表現力を高め、話し合い活動をすることが求められている。これは今年度の研究テーマと合致していると言える。

2つ目は、読書活動であれば自分たちが選んだ本を紹介する為、自分の意見を表現しやすいと考えるからである。国語科の言語活動では、同じ教材の中で意見を出し合うことが多い為、意見が同じになってしまうことがある。読書活動は、自分と相手は違うということを理解し、

相手に伝えていくというこの研究テーマに合致していると考ええる。

## (3) 研究の方法

研究の方法については以下のとおりである。

7月(夏休み前)に事前アンケート・読書活動の説明・本の選書を行う。その後夏休み明けの10月から読書活動を行い、授業後アンケートを実施する。分析は事前アンケート結果、毎時間のoppシート、授業後アンケート結果から行い、生徒達の意識の変容を見取ることによって効果的な授業デザインを明らかにする。

## 3. 事前調査

### (1) 先行研究

分かりやすく伝える力に関して、鈴木(2008)は小学校の4.5.6学年児童、計30人に対し、「国語科授業で、話すときに気を付けていることを教えてください。(記述)」とアンケート調査を行い、「分かりやすく伝える力」に関わる回答をした児童数と内容を分析した。その結果、調査した児童数30人中、「分かりやすく伝える力」に関わる回答をした児童数は4人のみ(13.3%)であった。また、相手意識に関わる回答がなく、内容に具体性がないという特徴があった。このことから鈴木(2008)は、「児童たちはそもそも分かりやすく伝える為の技術を知らない」と述べている。

### (2) 事前アンケート

筆者は鈴木(2008)を参考に授業実践校にて事前アンケートを実施し、生徒達の意識調査を行った。

- ①対象校 山梨県内の公立中学校
- ②期間 2021年7月
- ③対象 第2学年4クラス 128名
- ④質問内容

・普段相手に説明をする時に分かりやすく伝えることができますか?(選択)

1. 上手く伝えられている
2. 伝えることができているつもりである
3. 上手く伝えたいが伝え方がわからない

#### 4. 伝える意識はしていない

このアンケート調査の結果は以下である。

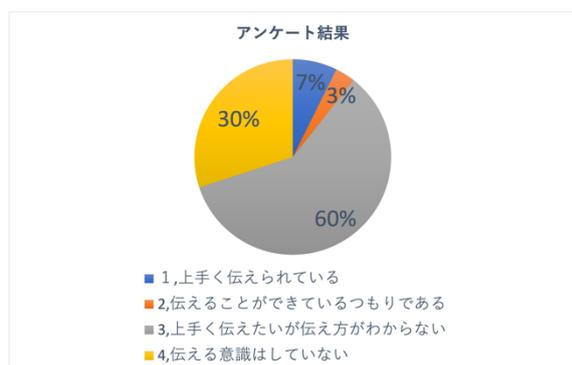


図1 事前アンケート結果

表1からわかるように、1. 上手く伝えられている(7.3%)、2. 上手く伝えることができているつもりである(3.3%)と回答した生徒数は少なく、3. 上手く伝えたいが伝え方がわからない(59.3%)と回答した生徒数が1番多かった。次に多いのは4. 伝える意識はしていない(30%)であった。これらの結果から筆者の授業実践校の生徒の特徴として、分かりやすく伝える意識はあるが自分の説明の仕方では伝わっているか分からない生徒、そもそも伝える意識をしていない生徒が多いことが明らかになった。

#### 4. 授業実践について

実際に行った「相手を理解して伝えようとする姿勢を育む読書活動の実践」について以下に概要を示す。

##### (1) 授業実践の概要

- ①対象校 山梨県内の公立中学校
- ②期間 2021年7月(事前準備 全1時間)  
10月(読書活動 全4時間)
- ③対象 第2学年4クラス 128名
- ④教材 『光村図書出版「国語2」』
- ⑤単元名  
読書活動を豊かに～読書を楽しむ～

##### (2) 事前準備の内容

事前準備で行った内容は、事前アンケート1、

読書活動の説明、本の選書である。

##### ①読書活動の説明

読書活動の説明では誰に向けてどのように本の紹介をするのかを説明した。説明内容は以下である。

発表は4人構成の班(生活班)で1冊の本を紹介する。紹介する対象は2つの班に対して行う。ビブリオバトルやブックトークのような読書活動では全体を対象として本の紹介をするが、この授業実践では相手を理解することに焦点を絞るため、班員を対象とする。2つの班それぞれに紹介をする為、発表回数は2回となる。また、発表準備の際に各自、読書プロフィールを作成し、発表相手の班と交換をしてお互いを理解する。

##### ②本の選書

本の選書では、筆者が本のリストを作成し、生徒達はそのリストの中から選書を行った。リストに選定した本の基準として、生徒達は普段ライトノベル関連の本を好んで読んでいる為、あまり手を出さないジャンルの本を選定した。以下はリストの例である。

##### ○翻訳系

- ・『星の王子さま』著 サン＝テグジュペリ  
翻訳 倉橋由美子(文春文庫)、池澤夏樹(集英社文庫)、河野万里子(新潮文庫)
- ・『赤毛のアン』著 モンゴメリ  
翻訳 松本侑子(集英社文庫)、松岡花子(新潮文庫)、掛川恭子(講談社文庫) など。

##### ○教科書掲載作品の作者 別作品

- ・『あと少し、もう少し』著 瀬尾まいこ(新潮文庫)
- ・『ユタとふしぎな仲間たち』著 三浦哲郎(新潮文庫) など。

##### ○その他

- ・『太陽の子』著 灰谷健次郎(角川文庫)
- ・『犬と私の10の約束』著 川口晴(文藝春秋)
- ・『くちびるに歌を』著 中田永一(小学館)

生徒達は選書した本を夏休みの間に読み、感想をまとめて自分がこの本のどこを相手に勧

1 3,事前調査で述べたもの

めたいかを考えてくる。選書した本は4冊同じ本を用意する必要があった為、学校司書の方に協力していただき、市内の学校図書館から同じ本を多数用意した。

### (3) 読書活動の内容

読書活動で行った各時間の目標、概要と手立てについて述べていく。なお、毎時間の振り返りでは1枚ポートフォリオを使用し、生徒達が振り返りを行いやすいようにした。

#### ① 1時間目

【目標：相手の心を動かす本の紹介の工夫を考える】

鈴木(2008)、事前アンケートの結果から、分かりやすく伝える為の技術を知らない生徒が多いことがわかっている。そこで本の紹介をする前に発表の仕方の説明をする必要があり、この目標を設定した。1時間目の授業概要と手立ては以下のとおりである。

・好きな本を相手に紹介する際に気をつけていることは何かをあげる。

初めに、生徒達に好きな本を相手に紹介する際に気をつけていることは何かをあげてもらった。以下は生徒達の意見の例である。

- i, 内容のあらすじを話しすぎないようにする。
- ii, 相手が分かりやすい説明で相手の知識に合わせる。
- iii, 説明のメリハリをつける。
- iv, 絵を書いたり、ジェスチャーをつける。

i～ivの意見の他にも様々なものがあがり、これらの意見は全て紹介する際に気を付ける工夫であった。ここで更にこれらの工夫はi、iiのような「話す内容の工夫」とiii、ivのような「説明の仕方の工夫(テクニック)」の2つに分類できると説明を行った。そして、これらの工夫は相手(聞き手)に向けた工夫であり、相手を理解し、意識して発表をすることで相手の心を動かす提案になるということを指導した。

・ビブリオバトルの動画を鑑賞し工夫を学ぶ。

2つの工夫を理解した後、ビブリオバトルの動画を鑑賞し、その発表者の工夫を考える活動

を行った。生徒達からは「聞き手に向けての質問が良かった。」「結末をあえて話して興味を惹かせることもできると分かった。」「相手に読んで欲しいところを特に強調していた。」などの意見があがった。

・読書プロフィールの作成を行う。

読書プロフィールとは自分が読書に対してどう思っているか、好きな本のジャンルは何かを相手に知ってもらう為のプロフィールである。読書プロフィールを使用することで相手を理解するきっかけを作るねらいがある。このプロフィールを作成した後は本の紹介を行う同士でプロフィールを交換する。2つの班にそれぞれ発表をしてもらう為、2枚作成する。相手を理解し、意識した発表を行う為、発表相手はこの読書プロフィールから工夫を考える。

#### ② 2時間目

【目標：相手を理解した本の紹介を考える】

2時間目の授業概要と手立ては以下のとおりである。

・本の内容確認をする。

夏休み前に選書した本の内容確認を行った。新型コロナウイルスによる分散登校の関係で読書活動の実践が遅れてしまい、夏休みの間に読んでから1ヶ月空いてしまった為、本の内容の確認を丁寧に行った。生徒によって本を読んでいたかどうかは差があったが、4人班で構成した為、協力して準備を進めることができた。

・相手の読書プロフィールから説明の作戦を立てる。

1時間目に作成した読書プロフィールから、相手が読書に対してどう思っているかを把握して説明の作戦を立てた。相手を理解する上で欠かせない取り組みとなった。

・フリップの作成をする。

説明の仕方の工夫として、絵や図、本のセリフなどを書き出し、視覚的に相手に伝える為にフリップの作成を行った。また、発表をすることが苦手な生徒にとってもフリップを使用することは補助となった。

#### ③ 3時間目

【目標：効果的な本の紹介を考える】

3時間は2時間目同様、発表準備の時間に当てた為内容は省略する。

#### ④ 4時間目

【目標：本の紹介をして相手に伝わったかを振り返る】

4時間目の授業概要と手立ては以下である。

・相手に本の紹介を行い、振り返りを行う。

2.3時間目で準備をしたものを発表した。発表は5分間で行い、終わり次第発表を交代する。(例:A班からB班5分間、B班からA班5分間)その後振り返りを行い、どういうところを工夫したか、それが伝わっているかなどを話し合う。(振り返り時間は10分)2回目も同様の手順で行い、同じ本を違う相手に2回紹介をする形で行った。

・チェックシート、タブレットを使用する。

発表を聞く側はチェックシートを使用し、評価をした。評価内容は以下で、それぞれ5段階で評価を行った。

i,紹介の本の内容は伝わったか?

ii,伝え方の工夫はされていたか?

iii,その本を読みたいと思ったか?

これらのチェックシートの評価を元に振り返りを行った。また、チェックシートの他に発表中はタブレットで動画を撮り、振り返りの際に活用した。

本の紹介の様子では、本の登場人物の相関図などを書き出し、あらすじを説明する班や伝えたいシーンをイラストにして伝える班など、工夫は様々であった。また、読書が好きではないと回答した人が多くいた班に向けてはイラストを使用し、反対に読書が好きと回答した人が多くいた班に向けては文章を朗読するなど、相手によって説明の仕方を変える様子が見受けられた。

・授業後アンケートの実施

2回目の発表と振り返りの終了後、毎時間のoppシートの記入の他に授業後アンケートを実施した。授業後アンケートの内容は以下である。

i,相手に分かりやすく本の紹介をすることができたか?(1.上手く伝えられた。2.改善点は

あるが伝えることができた。3.上手く伝えることができなかった。)

ii,本の紹介をしている時、どのような気分でしたか?(自由記述)

iii,今後、説明や紹介など物事を伝える際に相手を理解し、効果的に伝えることを意識したいと思いますか?(1.意識したい。2.意識しない。)

iv,意識したいと思った方は具体的にどんなことを意識しますか?(自由記述)

## 5. 考察

事前アンケートの結果から、1.上手く伝えられている(7.3%)、2.伝えることができているつもりである(3.3%)と回答した生徒達をグループ1.2とし、3.上手く伝えたいが伝え方がわからない(59.3%)と回答した生徒達をグループ3、4.伝える意識はしていない(30%)と回答した生徒達をグループ4とする。これらのグループの生徒達が授業実践を通してどのように変化したのかをみとる為に、分析を行った。分析の方法は授業1時間目の際の質問、毎時間のoppシートと授業後アンケートの結果を用いて行った。

### (1) グループ1.2

#### ①1時間目

1時間目の初めに「好きな本を相手に紹介する際に気を付けていることはありますか?」と質問をしたところ、グループ1.2は以下のように回答した。

・相手のことを見ながら話す。・相手の知っている言葉を使う。・相手が理解しているかを気にする。

これらの回答は全て相手に関する記述であり、相手を理解して伝えようとする姿勢が1時間目の段階であることがわかる。よって授業前の段階で研究目的に達している。

### (2) グループ3

#### ①1時間目

1時間目の初めに「好きな本を相手に紹介す

る際に気を付けていることはありますか？」と質問した。グループ3の生徒達の人数は75人であり、以下はグループ3の回答例である。

- ・あらすじを伝える。
- ・本の魅力を伝える。
- ・相手が飽きないようにする。

これらの回答から、鈴木(2008)の先行研究と同様具体性のあるものが少ないことがわかる。また、相手に関する記述<sup>2)</sup>は75人中28人(37%)であった。

## ②4時間目授業後アンケート

授業後アンケートの結果を述べる。

ii, 紹介している時、どのような気分でしたか？

この質問に対して、グループ3の回答と割合を以下に記した。



図2 紹介している時の気分

- ・緊張した(47人)
- ・楽しかった(9人)
- ・難しい(13人)

これらの結果から、グループ3の紹介している時の気分では緊張したと感じた生徒が約7割いたことがわかる。そして緊張したと回答した生徒47人の内、8割の生徒が4時間目のoppシートにて「相手に伝わっているかは不安ではあったが、振り返りをする事で安心、自信になった。」と記述があった。このことから、振り返りの時間を設定したことで緊張したと感じた生徒の心を安心や自信に変えることができた。

iii, 今後、説明や紹介など物事を伝える際に相手を理解し、効果的に伝えることを意識したいと思いますか？(1.意識したい。2.意識

しない。)

この質問に対し、グループ3は75人中75人(100%)が意識したいと回答をした。しかしグループ3は事前アンケートの時点で意識はしていると回答していた為想定した結果であった。iv, 意識したいと思った方は具体的にどんなことを意識しますか？(自由記述)

この質問に対してのグループ3の生徒達の回答を「話す内容の工夫」と「発表の説明の仕方の工夫」に分類した。以下はその例である。

### 【話す内容の工夫】

- ・相手によって本のどこを説明するかを変える。
- ・相手によって言葉選びを気を付ける。

### 【説明の仕方の工夫】

- ・フリップを使い相手が飽きないようにする。
- ・質問を挟み興味を惹く。

これらの回答から、相手によって説明の仕方を変えることや、相手が飽きないようにするなど、相手に関する記述が75人中53人(70%)まで上がった。これらは読書プロフィールを使用したことがきっかけとなり相手理解を深めたことが要因である。また、分類した工夫の内、表3のように「話す内容の工夫」を回答した生徒の割合が64%、発表の説明の仕方の工夫を回答した生徒が36%であり、発表の話す内容の工夫を回答した生徒の割合の方が多いという特徴があった。

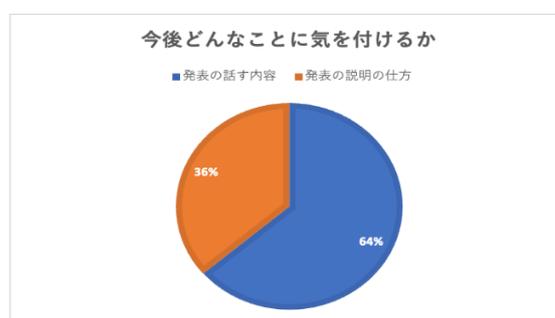


図3 今後気をつけること

## (3)グループ4

### ①1時間目

他のグループ同様、1時間目の初めに「好き

<sup>2)</sup> 相手に対しての工夫が記述されているもの

なものを紹介する際に気を付けていることはありますか?」と質問した。グループ4の人数は37人であり、以下は回答例である。

- ・ネタバレしない。
- ・分かりやすいように伝える。
- ・面白さを伝える。

これらの回答からも内容に具体性がないことがわかる。また、相手に関する記述は37人中2人(5%)のみであった。

## ②4時間目授業後アンケート

授業後アンケートの結果を述べる。

### ii, 紹介している時、どのような気分でしたか?

この質問に対して、グループ4の回答と割合を以下に記した。

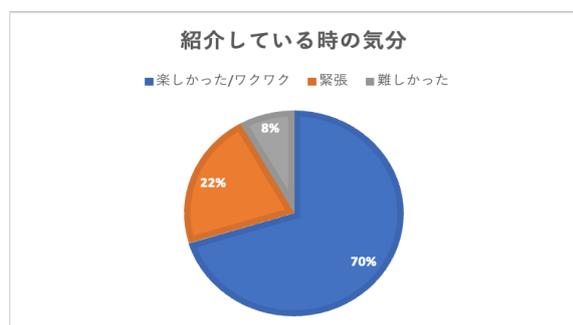


図4 紹介している時の気分

- ・楽しかった、ワクワクした。(26人)
- ・緊張した。(8人)
- ・難しかった。(3人)

これらの結果から、グループ3とは正反対に楽しかった/ワクワクしたという気分が7割を占めた。しかし、授業前の段階で相手を理解して伝えることに対して楽しいか、楽しくないかの調査ができていない為、変容したかどうかは不明である。

### iii, 今後、説明や紹介など物事を伝える際に相手を理解し、効果的に伝えることを意識したいと思いますか?(1.意識したい。2.意識しない。)

この質問に対し、グループ4の37人中37人(100%)が意識したいと回答した。事前アンケートの段階では伝える意識をしていないと回答した生徒達がこの授業実践を通して意識したいという姿勢を持つことができた。

### iv, 意識したいと思った方は具体的にどのようなことを意識しますか?(自由記述)

この質問に対し、グループ4の回答を話す内容の工夫と説明の仕方の工夫に分けた。以下が回答例である。

#### 【話す内容の工夫】

- ・相手の好きなことに関わるように話す。

#### 【説明の仕方の工夫】

- ・言葉だけではなく絵も使う。
- ・相手に伝わるようにハキハキと話す。
- ・相手を巻き込むように話す。

これらの回答から、相手に対しての記述が1時間目に比べて増えたことがわかる。相手に関する記述は15人中37人(40%)まで上がった。また、分類した工夫の割合では約70%の生徒が発表の説明の仕方の工夫を記述していた。これはグループ3と正反対な結果となった。

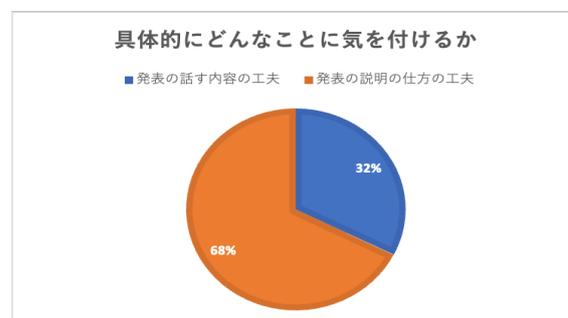


図5 今後気をつけること

## 6. 研究全体のまとめ

### (1) グループごとの授業デザイン

生徒の考察を踏まえて、それぞれのグループごとに有効だった授業デザインを述べる。(グループ1.2は授業実践前の段階で研究目的に達していた為省略)

#### ①グループ3

##### ・振り返りの時間の設定

紹介している時の気分では緊張が約7割を占めていたが、発表後の振り返りの時間を設定することで、緊張や不安という気持ちから、安心、自信に繋がったと言える。

##### ・読書プロフィールの使用

1時間目の時点では相手に関する記述が37%であったことに対し、4時間目終了時には記述が70%まで上がった。この要因として相手

のことを理解するきっかけを作った読書プロフィールの使用が有効であったと言える。

## ②グループ4

### ・読書プロフィールの使用

1時間目の時点では相手に関する記述が6%であったことに対し、4時間目終了時には記述が40%まで上がり、グループ4の生徒全員が今後相手に伝える意識をしていきたいと回答した。これはグループ3同様、読書プロフィールの使用が有効であったと言える。

## ③グループ3.4の比較から

### ・段階的な指導

今後具体的に意識していきたいことの回答にグループ3では発表の話す内容の工夫が多く、反対にグループ4では発表の説明の仕方の工夫が多いという違いがあった。このことから、グループ4のような「伝える意識をしていない」生徒達にとって、話す内容の工夫よりも説明の仕方の工夫の方が、ハードルが低く挑戦しやすいということがわかる。よってグループ4のような段階の生徒には、説明の仕方などの形式的なことの指導から始める段階的な指導が有効であると言える。

## (2) 研究の成果

ここまでの授業実践と考察の結果から以下に研究の成果を示す。

- ・この授業デザインによって対象生徒全員(特にグループ4)が、今後相手を理解し、意識した説明をしたいと回答した。
- ・読書プロフィールを使用したことで対象生徒を問わず相手に関する記述が増え、相手理解を深めるきっかけとなった。
- ・意識はしているが伝え方がわからない生徒(グループ3)には、お互いの発表を振り返る時間を設定することで、安心、自信に繋がった。
- ・伝える意識をしていないという段階の生徒(グループ4)には説明の仕方などの形式的なことから始め、次のステップとして話す内容の工夫などに結び付ける、段階的な指導が有効なことがわかった。

これらの成果から、今回の読書活動の授業デザインによって「相手を理解して伝えようとする姿勢を育む」ことが可能であると言える。

## (3) 課題

授業実践を通して見えた課題は、グループ4の紹介している時の気分で楽しいと感じた理由を更に探ることである。もし、グループ4の生徒達が読書プロフィールの効果で、相手を知るきっかけになり、楽しいと感じたのであれば、更に読書プロフィールを活用した授業デザインの効果が期待できると考える。

## 7. 終わりに

本研究を行うにあたり、ご協力頂いた授業実践校の校長先生をはじめ先生方や生徒の皆さん、ご指導頂いた先生に厚く御礼申し上げたい。

## 参考文献

- ・鈴木秀樹(2008)「わかりやすく伝える力を育成する」  
([https://www.center.shizuoka-c.ed.jp/files/tyoukty/h20\\_7.pdf](https://www.center.shizuoka-c.ed.jp/files/tyoukty/h20_7.pdf) 閲覧日 2022/2/18)
- ・国立国語研究所「相手を理解する多様性を見つめて」
- ・文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1306119.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306119.htm) 2022/2/18)
- ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』
- ・文部科学省「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/\\_icsFiles/afieldfile/2018/05/25/1404326\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/siryou/_icsFiles/afieldfile/2018/05/25/1404326_3.pdf) 閲覧日 2022/2/18)
- ・文部科学省「子供の読書活動推進ホームページ」  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/dokusyo/suisin/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/dokusyo/suisin/index.htm) 閲覧日 2022/02/18)